

全国協議会 ニュース

2025年12月1日発行 第400号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

骨髄バンクを介した移植が 3万例に到達

骨髄移植推進財団（現日本骨髄バンク）は1992年1月にドナー登録、6月に患者の登録を開始し、1993年1月に初の非血縁者間骨髄移植が行われました。この度2025年10月31日(金)に日本骨髄バンクから骨髄・末梢血幹細胞移植が3万例に到達したとの発表がありました。これは多くの善意の骨髄提供者によって支えられ、また、多くの医療従事者と説明員・ボランティア

そして日本骨髄バンクの皆様の努力の賜物です。著名人が血液疾患を発症した、また、お亡くなりになったと発表されるとドナー登録者が一時的に増えたこともありましたが、今後は多くの若年層のドナー登録を得て、提供しやすい環境を整え、希望するすべての患者さんが移植を受けられるよう全国協議会も関係機関と更に連携を強化して活動してまいります。

骨髄バンクを支援するやまがたの会 創立30周年



節目ごとに記念行事を催してきました。2020年は25周年でしたが、コロナ禍のため、記念誌を発行するだけに留めました。今年は、1995年の創立から30周年という節目。春の役員会で「祝賀会をしよう」と意見が出され、みんなが「いいね～」と賛成したのですが、小野寺会長だけが「ボランティア団体が祝賀会などするものじゃない」と反対しました。周年行事をやるなら今しかない、みんなで説得し、やっと進めることに。私の見立てでは100人規模の会になると思いましたが、50人を想定して会場を選定することになりました。全国各地へ案内を200枚も出したのに、予想以上に参加申し込みが来たらどうしようと、逆にひやひやすることになりました。

11月15日(土) シャンティ（山形市）
のりかず
で開催した祝賀会には、鈴木憲和農林

水産大臣はじめ、遠藤利明衆議院議員、吉村美栄子山形県知事ほか多数お祝いメッセージをいただき、さらに、芳賀道也参議院議員や、骨髄バンクを支援する山形議員連盟の皆様も来てくださり、おかげさまで満員御礼となりました。

トークショーに山口明大さんと布施諒さんをお招きし、「血液がん患者とドナー、そしてそのご家族のこれまでとこれから」と題してお話いただき、山形センター合唱団の皆様からは素敵な歌声を披露いただきました。飛び入りで全国協議会公式アンバサダーの山本雅也さんが歌ってくださるというサプライズもあり大変盛り上がりしました。また、小野寺会長が永年お世話になっている山形大学医学部教授の三井哲夫先生と石澤賢一先生のスピーチは、守君の闘病当時の様子や最新の治療など、多岐にわたる話で、録音しておくべきだったと後悔。

参加者は、遠くは広島から来てくださり、小野寺会長のこれまでの繋がりがあつてのことと感じた次第です。

（骨髄バンクを支援するやまがたの会
草刈めぐみ）

キモチ届けようキャンペーン

12月の寄付月間に合わせて、ブックオフの「キモチと。」にて、「キモチ届けようキャンペーン」が開催されます。キャンペーン期間中に全国協議会を指定してお申込みいただくと、1件につき500円がブックオフから上乗せされ、当団体へ寄付されます。

読み終えた本やCD・DVDなどで、私たちの活動をご支援ください！

■キャンペーン期間

12月1日(月)～12月31日(水)

お申込み分まで

買取対象のお品物については、下記の「売れるもの一覧」をご確認ください。

お申込みはこちら



■条件

- ・1回のお申込につき、お品物10点以上の送付が必要です。
- ・キモチと。プログラム（サイト経由のお申込み分）が対象となります。
- ※ブックオフ店舗、宅配買取、回収ボックスのご利用は対象外です。

■注意事項

- ・同一商品にはお値段をお付けできませんので、大量の送付はお控えください。
- ・お申込み後にキャンセルされた場合は、キャンペーン対象外となります。
- ・上乗せされる500円は、お客様のマイページや査定結果メールには表示されません。（査定額とは別に、ブックオフより当団体へ寄付されます）

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(11月14日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2025年10月末現在)

		9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数		2,187	3,576	565,858	1,014,677
患者登録者数		200	214	1,744	72,388
採取数	骨髄	52	55	—	27,430
	末梢血幹細胞	34	49	—	2,699
	合計	86	104	—	30,129

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／681人、献血併行型集団登録会／2,800人、集団登録会／39人、その他／56人

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,099人／20代 100,442人／30代 137,660人
40代 207,762人／50代 114,895人

■10月の20歳未満の登録者636人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

北海道ブロックボランティアセミナー報告



11月15日(土)に札幌市社会福祉総合センターにおいて、札幌・小樽・苫小牧・釧路・北見のボランティア5団体と関係機関の参加による北海道ブロックボランティアセミナーが開催されました。

今年度は、全国協議会柴山事務局長に講師としてお越しいただき「ボラン

ティア活動の現状と課題」と題し、全国協議会の取組みやボランティア団体の高齢化問題、若年層へのドナー登録促進の取組みと活動への支援等について話していただきました。また、スワブ登録開始へ向けた動向、骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟ヒアリング会での患者負担金軽減問題やドナー休暇制度導入促進支援に関する意見交換等に関する報告もありました。これらについては参加ボランティアの関心も高く、予定時間を過ぎての質問もありましたが丁寧に回答していただ

きました。

講演の後は、参加ボランティア団体の他に日本赤十字社北海道ブロック血液センターや北海道保健福祉部、札幌市保健福祉局を交えて各機関からの活動報告を行うとともに、成人式での啓発資料配布依頼等の意見を交わしました。

北海道内のボランティア団体は、会員数が多く活動も活発な団体はごくわずかで、多くは会員の減少と高齢化問題を抱えています。ブロックセミナーを通じて同じ願いを持つ団体として連携を深め、活動の継続と活性化に繋がることを願います。

(北海道ブロック担当理事 齊藤千秋)

日本赤十字社 全国骨髄ドナー登録担当者研修会開催

11月13日(木)日本赤十字社別館会議室で開催された、令和7年度第2回全国骨髄ドナー登録担当者研修会(日本赤十字社主催)を傍聴しました。各都道府県の現場で、ドナー登録業務に携わっている担当者が一堂に会した研修会で、2016年から開催して10年目となります。例年初日のプログラムの冒頭は、提供を受けた患者や骨髄バンクを介して提供したドナーの体験談、医療従事者・行政の骨髄移植推進の取り組みなどが講演されます。

骨髄移植を経験した患者は26歳の三浦瑠菜さん。12歳で急性リンパ性白血病を発症してつらい抗がん剤治療を2年間経て寛解。高1から大学2年までは普通の生活を送っていたが再発となり、幸いにも2カ月で骨髄バンク

のドナーが見つかり提供を受け、GVHDがキツくつらかったが2年後に社会復帰ができたとのこと。闘病中は友人が元気になった後の夢を一緒に考えてくれたことが力となった、輸血も沢山受けたので献血・骨髄ドナーに感謝、当たり前を日常を送れることのおかげがえのなさを感じているとのことでした。

骨髄提供体験者は、日赤職員の天光純一さん。日赤本社における献血でドナー登録して何と3カ月後に候補者に選定され、末梢血幹細胞採取を選択。入院して幹細胞を増やすG-CFSを4日間注射すると頭痛や腰痛のため提供時には車椅子で採取場所へ移動した、術後は背中に違和感があり2回の健診を受けたが患者さんへ無事に骨髄を提供でき喜びを感じた、提供を決断する

に当たり周りに複数のドナー経験者がいたので体験を聞き安心できた、日本赤十字社のスローガン“人間を救うのは、人間だ。”を実感しているとのことでした。

次に都立駒込病院 HCTC(造血細胞移植コーディネーター)の小瀧美加さんと池田絵美さんがHCTCの役割と日常の仕事内容を講演されました。HCTCは患者とドナーのコーディネートを血縁者間移植、非血縁者間移植及びさい帯血移植も担当しているとのこと。その業務の幅の広さに驚くとともに、もっと詳しい話を聞きたくなりました。

その他、大阪府堺市の保健所での骨髄移植普及促進事業の紹介がありました。

各都道府県の職員間で体験談が共有され、ドナー登録への理解が深まることを願います。

(全国協議会副理事長 若木換)

「踊ルバル」公演報告

11月1日(土)～3日(月・祝)、東京・神楽坂セッションハウスにてダンス公演「踊ルバル」が無事終演いたしました。このたび全国協議会様よりご後援を賜り、梅田理事長をはじめ骨髄バンクに携わる皆様にも会場へお越しいただき、舞台芸術に携わる私たちにとって社会との新たなつながりが生まれたことを大変嬉しく感じております。

踊ルバルは“デュオ”をテーマにしたダンス公演です。人と人との出会いから生まれる化学反応をコンセプトと

しており、患者さんとドナーさんが“出会うこと”によって救われる命があるという骨髄バンクの存在と重なる部分があると考え、今回全国協議会様にご後援いただく運びとなりました。

公演当日に実施した「踊ルバル×mo2ka.com」のハンドメイドアクセサリーのコラボ販売では、売上の一部を全国協議会様へ寄付させていただきました。舞台芸術活動を通して社会貢献へつなげられましたことを、主催者としても大変嬉しく思っております。

公演後には、「とても楽しかった」「間近でのダンスに興奮した」「泣いた



り笑ったり心を動かされた」など、多くのお客様から温かいお声を頂戴しました。会場では骨髄バンク普及のパンフレットも配布し、少しでも活動への理解につながることを願っております。今後もダンスを通じて、誰かの明日の力になれるよう表現活動を続けてまいります。

(踊ルバル主催 北村羽菜・小石川茉莉愛)

東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2025 開催

11月8日(土)9日(日)の2日間、東京雪祭 2025 (主催：一般社団法人 SNOWBANK 代表 荒井善正) が東京・代々木公園で開催されました。献血者数 357 人、ドナー登録者数 49 人と多くの協力をいただきました。



全国協議会では献血併行型登録会とブースでの啓発活動を行いました。

関東近県の加盟団体(埼玉骨髄バンク推進連絡会、千葉骨髄バンク推進連絡会、骨髄バンクを支援する東京の会、神奈川骨髄移植を考える会)の皆様に協力いただきました。

今回は天候の影響もあってか目標の献血 400 人ドナー登録 100 人には届きませんでしたが、ドナーの既登録者は 99 人もおられ、これまでの開催の成果を感じるとともに、今後もっと多く

の方に「若者に献血・骨髄バンクを知って、行動してもらおうキッカケの場：SNOWBANK」を知っていただき、献血・ドナー登録の意義を広めていきたいと思います。

東京雪祭 2025、事務局員として初めてイベントに参加しました。8日は晴天に恵まれましたが、私の参加した9日は残念ながら朝からの雨。

天候が悪い中でも来場者数は増え始め、お昼頃に一時的に雨が上がり、雪山の周りには人だかりができていました。レールを利用したジブスタイルバトルが繰り広げられ、時折「オオーッ!!」と大きな歓声が上がり、会場は大変な盛り上がりを見せていました。

協議会のブースでは、キャップ投げ

にくじ釣り、キャラクターのお面が子どもたちに大人気。景品のおもちゃを一生懸命選ぶ子どもたちを眺めながら、彼らが大きくなった時、ドナーさんになってくれたらうれしいなど、ささやかな願いを込めて一緒におもちゃを選びました。

献血とドナー登録への協力をお願いしながら配ったティッシュは、「かわいい!」と喜んで受け取ってもらい、「ドナー登録済みで、連絡を待っています!」という心強い言葉をいただくことも多々あり、活動への確かな手応えを感じました。

献血ブースが雪山のすぐ横に設営されたことで、来場者の方々はイベントを楽しみながら自然と献血や骨髄バンクに興味を持ち、社会貢献活動へと参加していただきました。

そうした「楽しみながら広がる支援の輪」が、未来の誰かの命を救う力となることを確信した一日でした。事務局員として、これからもこの活動に尽力してまいります。

(事務局 金杉智子)

希少がん・小児がんの体験を誰かの支えに



移植後は再発もなく今年で31歳になります。僕のかかった病気は「ランゲルハンス細胞組織球症」というものでした。免疫に関係する血液細胞の病気で、全身のあちこちで炎症を起こします。長いので、病名の頭文字(Langerhans cell histiocytosis)をとってLCHと呼ばれます。

この度、闘病の経験を本にする機会に恵まれました。タイトルは『僕は、赤ちゃんに救われた命 ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)からの奇跡の生還』です。2歳~10歳の闘病中の

僕は幼い頃に希少ながんになり、10歳のときに受けた臍帯血移植で一命を取り留めました。移植前は再発を繰り返していましたが、

ことはもちろん、退院後の学校生活や、現在のがん経験者の会での活動も紹介しています。

移植に至るまでは本当に奇跡の連続でした。一向に良くならない病状に、最初は骨髄移植が検討されました。しかし、家族(父、母、姉、妹)とはHLA型が一致せず、全身状態の悪化で一刻の猶予もない状態で、主治医から提案されたのが臍帯血移植でした。バンクで型の一致する臍帯血が見つかったことで移植を受けることができ、僕は助かりました。

僕とHLA型が合致する臍帯血をもった赤ちゃんがいて、そのお母さんの出産があって、バンクに提供してくれていたから、移植を受けられたのだと考えると、出会いとタイミングの奇跡だったと本当に感謝しています。

今回本にまとめるにあたって、当時の主治医に改めて話を聞きました。移植に至るまでの両親とのやり取りや、生着するように手を尽くしてくれてい

たことを知ることができました。

僕の症例は希少なLCHの中でもさらに特殊なケースで、一般的なものとは言えないかもしれませんが、中学生以降の晩期合併症の悩みは、小児がん経験者の多くに当てはまることだと思います。これまで、たくさんの方々に支えられて生きてきました。次は、僕が誰かを支えることができれば嬉しいです。

ご購入はアマゾンや書店から。経験は誰かと共有し、役に立ってこそ、意味が出てくるのだと、僕は考えています。多くの人に読んでもらえると嬉しいです。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった全国骨髄バンク推進連絡協議会の皆さんに感謝申し上げます。

『僕は、赤ちゃんに救われた命 ランゲルハンス細胞組織球症(LCH)からの奇跡の生還』著者：福岡渉

体裁：四六判(ソフトカバー)
頁数：184ページ
定価：1,700円(税別)
ISBN：978-4-86372-136-4
出版社：星湖舎
発行：2025/10/13





福島

「みんな生きている～二つ目の誕生日～」上映に感動の涙



「若者のドナー拡大」が大きく叫ばれるなかで、県立高校にて映画上映と講演会が多くの関係者のご支援により開催されました。今年5月3日(土)に「みんな生きている～二つ目の誕生日～」を福島県白河市内にて上映いたしました。映画上映の後に主演者である樋口大悟氏他映画監督、音楽・出演

者のトークとミニライブに入場者から大きな拍手が止まりませんでした。そして映画を鑑賞した高校生のお母さんから「娘の高校で上映したい」との一言から、福島県立修明高等学校での全生徒対象の映画上映会の企画が始まりました。この計画にあたり同校同窓会長や開催地である棚倉町長が骨髄バンクの運営委員であったために、短期間で学校のご理解も得られ、俳優樋口大悟氏を招いての上映、講演が実現できたのです。

全校生徒333名の小規模なこの高校は私の母校でもありました。今から50年前の生徒と現在の生徒は対象的で、礼儀正しく真面目なことに驚きました。真剣に映画と講演に耳を傾け涙する生徒達の姿に深く感銘したところです。校長先生はじめ教頭先生や教職員の皆様のご指導があり「命の教育」が有意義に開催できたことにも感謝したところです。

歌手で女優の本田美奈子さんが逝去

し20年になることから、追悼番組制作のためNHKの取材が入り、樋口大悟氏の講演が全国放映されました。名も知らない方の骨髄提供により命を救われた彼の「若者へのメッセージ」は放送を通して全国の多くの若者に届いたはず。講演と取材が終了し高校を後にする玄関先で、多くの生徒にお見送りをさせていただきました。樋口大悟氏の頬を大粒の涙が流れ落ちました。

“若者よ、君たちの出番だ”と弊協議会は福島県内の県立私立高校106校に「若者向けの啓蒙ポスター」をお届けし、掲示と「命の教育」の取り組みをお願いしたところです。これらの地道な「命のバトンリレーの種まき」は必ずや「命の花」が開花します。

若者たちが将来に向けて地域の担い手として、優しく地域を支えてくれることを切に願うばかりです。

(福島県骨髄バンク推進連絡協議会 会長 関根政雄)

石川

学園祭でドナー登録会開催

10月11日(土)金沢市内の北陸大学での学園祭にて登録会を行いました。

大学の献血ボランティアサークルが当日献血バスを呼んで活動するというのを聞き、一緒に活動させてもらえないかと学生・学校・血液センター等をお願いし、開催が実現しました。

はとの会が主催している登録会は毎週日曜日の献血ルームだけで、移動登録会は県内の各保健所が行う会場に手伝いに行っている感じで、自分達が外で開く登録会は初めてと嬉しいものです。

当日は机・椅子等は学校からお借りしましたが、ポスター・ノボリなど色々準備し、揃いのユニフォームでメンバー4名と説明員研修中の学生3名と一緒に朝9時半から16時まで、張り切って活動しました。小雨混じりの天候で人出は少なめでしたが、11名の学生の登録と30名程への説明もできました。

メンバー全員疲れましたが結果に大満足で、来年も、これから先も続いていくイベントになればと思います。今



後は他の学校とも少しずつでも繋がっていきけるような活動をしていきたいと思っています。

(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会 代表 福島健一)

全国協議会 新入職員紹介



このたび入職しました事務局長の金杉智子です。事務局の業務が多岐にわたることに驚きながら毎日があっという間に過ぎます。どの業務におい

ても高い正確性と迅速さが求められることに、身が引き締まる思いです。先輩方がテキパキと業務をこなされている姿に日々圧倒されるとともに、多くの刺激を受けています。

現在はまだ覚えることばかりでご迷惑をおかけしていますが、一日でも早く業務に慣れ、戦力となれるよう努めてまいります。



心からのご寄付に感謝申し上げます ● 10月21日～11月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般

mo2ka.com	現金	3,000円
小玉 智也	現金	40,000円
大橋 洋典	現金	10,000円
藤波 敬子	現金	10,000円
青山 幸一	現金	5,000円
藤田 隆宏	現金	3,000円
匿名	現金	30,000,000円
匿名	現金	3,000円
匿名	現金	1,000円
●佐藤きこ子造血細胞移植患者支援基金		
日根 和美	現金	5,000円

●志村大輔患者支援基金

ヒウラ マサル 現金 24,600円

●募金箱

株式会社 クスリのアオキ	現金	1,362,459円
株式会社 マルト商事	現金	50,996円
株式会社 ナルックス	現金	55,223円
株式会社 フクヤ	現金	14,427円
株式会社 CIO(新橋ビジネスフォー		

ラム) 現金 3,898円
足立眼科医院 現金 2,012円

ケンコウ調剤薬局 現金 10,013円

SNOWBANK 募金箱 現金 10,000円

●つながる募金 現金 8,100円

●キモチと。 現金 8,662円

●マンスリーサポート 現金 58,000円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。